

カリウムの蓄積が少ないイタリアンライグラス

「tachyuka」の栽培実証(富岡町)

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 地域課題解決展示ほによる営農再開支援

研究課題名 飼料作物の放射性セシウム吸収抑制技術の実証

担当者名 柳田和弘

I 実証技術の解説

1 要旨

表土剥ぎ取り及び客土による除染を行った富岡町上手岡地区において、カリウムの蓄積が少ない品種として販売されているイタリアンライグラス「tachyuka」を栽培し、その品質特性について検証した。

その結果、他品種と比較してイタリアンライグラス「tachyuka」のカリウム含量が低くなることを実証した。

- (1) イタリアンライグラス「tachyuka」のカリウム含量は、「アキアオバ3」と比較して1～3番草平均で約3割低くなった(図1)。
- (2) 栽培した全ての牧草の放射性セシウム濃度は、飼料の暫定許容値(100Bq/kg (水分80%換算))を大きく下回った(表1)。

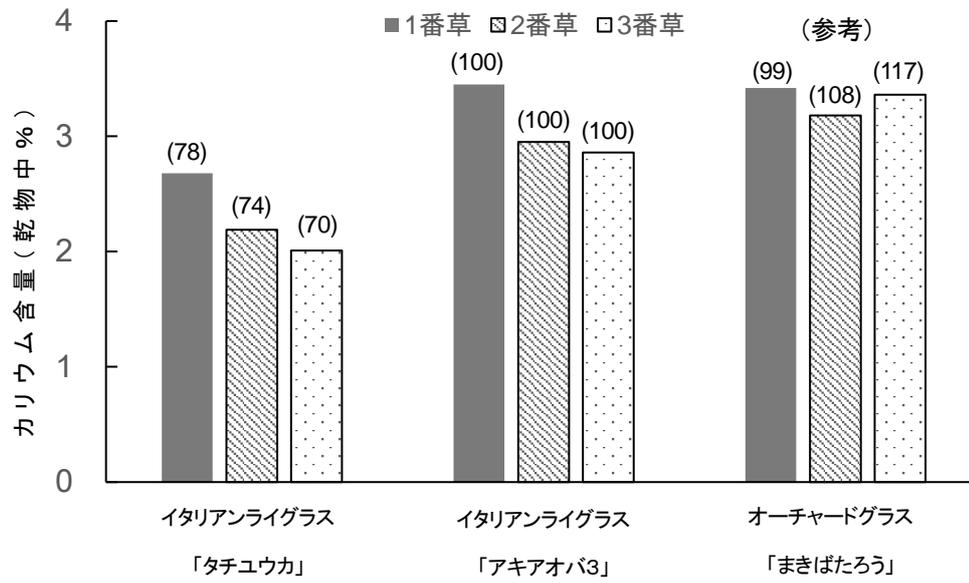
2 期待される効果

- (1) イタリアンライグラス「tachyuka」を利用することにより、カリウム含量が低い牧草生産が期待できる。

3 活用上の留意点

- (1) 本実証における作付け前の土壤中交換性カリ含量は35mg/100g乾土、放射性セシウム濃度は570Bq/kg乾土であった。
- (2) 本実証における施肥量は、10a当たり早春N:P₂O₅:K₂O=7:5:5kg、1番刈り後4:3:3kg、2番刈り後3:2:2kgとし、各番草刈り取り後は土壤中の交換性カリ含量を40mg/100g乾土となるよう塩化カリを増施して栽培した。
- (3) 実際に牧草を給与する際は飼料分析によりカリウム濃度等を把握したうえで、ミネラルバランスに注意した飼養管理を行う必要がある。
- (4) イタリアンライグラス「tachyuka」は雪印種苗株式会社から販売されている。

II 具体的データ等



注) ()は各番草毎の「アキアオバ3」対比

図1 各草種・品種のカリウム含量(乾物中%)

表1 各草種・品種の放射性セシウム濃度(Bq/kg (水分 80%換算))

草種	品種	1番草	2番草	3番草
イタリアンライグラス	tachiyuka	3.8	1.4	1.4
	Akiyaba3	1.9	1.2	1.8
オーチャードグラス(参考)	makibataraou	2.9	2.1	2.4

III その他

1 執筆者

柳田和弘

2 実施期間

平成 29 年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 「農作物の放射性セシウム対策に係る除染及び技術対策指針」第 3 版 福島県農林水産部
- (2) 「イタリアンライグラス中間母本農 3 号」を利用した低硝酸新品種 (国研)農研機構 畜産研究部門(平成 27 年度研究成果情報)